

山行報告書

受付 No.	207	登山地・ルート	明神岳東稜
目的	ルートファインディングの実践、積雪期の下見		
メンバー	L: 大山、Sakiko、ひげ		
行動記録			

月 日 曜	天候	ポイント地点・所要タイム
9・22・土	晴	浜松＝沢渡P＝上高地BT～明神～宮川の科尔～ひょうたん池 7:44 8:35 10:25 12:10
9・23・日	晴／曇	ひょうたん池～バットレス基部～明神岳～前穂～奥穂～穂高岳山荘 5:35 9:25 10:28 12:02 14:17 15:00
9・24・月	曇	穂高岳山荘～奥穂～間ノ岳～西穂～西穂山荘～上高地BT＝沢渡P＝浜松 5:00 5:34 8:42 9:43 11:15 13:32

記事 目的の成否・状況・問題点(反省)・メンバーの状況・ルートの注意点・自然状況

3回目の明神岳東稜への挑戦となるが、上高地の天気は今までで一番いい。明神から橋を渡り、林道沿いに歩いて左に道を入る。現在は信州大学の施設となっている建物の前を通り、小川を渡って笹藪に入る。そこからコースマークを頼りに足場の悪い谷沿いを登る。コースマークに導かれて谷を反対側に渡るが、斜面が悪いので、コースマークよりもう少し上がったところで斜面を下り、谷を渡る。あとは踏み跡のしっかりした道を宮川の科尔まで上がる。科尔の手前がまた少し足場が悪い。そこから先は、岩壁の基部沿いに、斜面を登り、長七の頭方面へ進路を変え、ひょうたん池の手前は沢沿いの踏み跡を藪こぎしながら登る。ひょうたん池には、2張分と1張分くらいのテントスペースができていた。睡眠不足のため、テント設営後は、みんなで昼寝した。

翌日は、藪こぎからのスタート。ひと登りで第一階段の基部に着く。ガイド本にはここでロープを出すようなことは書かれていなかったが、出だしに不安を感じたので、早速にロープを出す。出だしを越えればその後は特に問題もなかった。細いリッジ上の、ぐらつきの気になる岩にスリングを巻いてビレイし、2人を迎える。その次のピッチも、出だしの岩場を越えるために、そのままロープを出して行く。傾斜の強い草つきの斜面を登りながら、ここは積雪期は間違いなく雪壁だと思う。灌木でビレイし、一旦ロープを回収。しばらくの藪こぎの後、ハイマツ帯に出て、小ピークへ。ガスの切れ間に本峰がそびえる。バットレスの位置も確認する。下って基部まで行くと、取り付き部分が崩れている。迷わずロープを出し、もろそうな岩の出だしを越えて、あとはフィックスロープのあるトラバースと藪こぎの登り。50mいっぱいでピッチを切る。そのすぐ上がバットレスだった。ここにきてやっと藪から解放され、バットレスはロープ半分くらいのピッチで、3人とも無事に越えてロープを回収。あとは岩場を右よりにルートを取って明神岳の山頂に出た。山頂には2グループいた。明神から前穂までのルートも、踏み跡やフィックスロープなどあるが、多少のルートファインディングを要求された。前穂から奥穂に向かう途中、通り雨にあうが、岩がぬれるほどではなく、穂高岳山荘のテント場の密度はすごかった。(概念図略)

紙面不足の場合は裏面へ

報告者	大山	受付	平成	年	月	日	受付者	
-----	----	----	----	---	---	---	-----	--